

メタセコイア

(土屋中学校の樹)

＜学校教育目標＞

～ 夢に向かって ～

第7号

令和 8年 10月 1日発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋1766-1

TEL 048-622-4611

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

『 実るほど頭が下がる稲穂かな 』

校長 小熊 誠

地域の農家の皆様の温かい御支援と御協力により、約3反の田んぼをお借りして、令和8年度から土屋が学校を上げて取組んできた総合探究学習「知る」・「作る」・「使う」からなる「米創り」。その最初の収穫となる「稲刈り」が9月15日(火)に実施されました。残念ながら雨に祟られましたが、2年生と7組全員が、雨合羽に身を包み、一人1～2株程度の刈入れとはなりましたが、何とか本年度の収穫が終了しました。3月の1年生による「種まき」の手伝い。5月の2年生と7組による「田植え」。全学年による毎週の「観察」。全学年で実施した「かかしコンクール」。全校生徒のアンケートにより選ばれた3体の「かかし」。「土屋の守り神」となりました。全学年から募られたボランティアによる夏の「草むしり」。土屋の全校生徒・教職員・保護者の皆様の思い、そして地域の農家の皆様のおかげ様をもちまして、予想をはるかに上回る約1tのお米を収穫することができました。土屋の魂のこもった、世界でこの土屋でしかできない、世界でたった一種類の「土屋ブランドのお米」の誕生です。これは当然、さいたま市初、おそらくは、埼玉県初の快挙となるはずです。皆様のおかげ様をもちまして、素晴らしい一步を踏み出すことができました。ありがとうございます。

10月からは、いよいよ次のステージに進みます。3年生が「土屋ブランドのお米」の良さを最大限に生かすことを考え抜いた土屋独自のメニューによる給食が始まります。保護者・地域の皆様も少しずつではありますが御招待する予定です。そして、来年度に向けて、土屋全員で、もっと美味しいお米にするには、もっとたくさんの量を収穫するにはどうしたら良いのか？もっと美味しく食べるための料理法や、メニューにはどんなものがあるのか？お米の複雑な流通経路を調べ、知り、理解し、地域の皆様と共に「土屋ブランドのお米」の土屋独自の流通経路を開発できるのか？お米の「新しい形の創造」に向けて土屋の進化が始まり出しています。そして、その根底に流れる一番大事なことは、「実るほど頭が下がる稲穂かな」この俳句に深く刻み込まれている、「日本古来の美しさ」である「謙虚な姿勢と、おかげ様の心」の育成です。それが、土屋が、さいたま市に、いや日本に誇る土屋の「米創り」です。

10月には、中間テスト・新人戦・各文化部の発表会・合唱コンクール・駅伝・吹奏楽部の全国大会等、土屋の全力が試される「土屋秋の陣」のど真ん中です。生徒たちは、「米創り」によって身に付き始めた「日本古来の美しさ」を武器に、自慢の笑顔に磨きをかけ、さらに前に進んだ美しい輝きを放ってくれるはずです。保護者・地域の皆様、土屋の「メガ進化」に御期待ください。



希望の登校

笑顔の活動

満足の下